

憲法破壊する政治もはや座視できぬ

「来年の参議院選挙で、層加速し、憲法改正も日与党がやすやすと多数を程に上る」「日本の立憲維持するなり、多数派に主義と民主主義を守りたよる立憲政治の破壊は」といって切望する市民にとっ

シリーズ 待たなし！ 戦争法廃止



「市民連合」結成記者会見で写真撮影に応じる各氏=20日、東京都千代田区

12/22 系稿

立憲主義回復へ

て、もはや状況は座視できぬ。もはや状況は座視できぬ。もはや状況は座視できぬ。

20日、東京で結成の記者会見を開いた「安倍法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合」（略称・市民連合）の趣意書の一文です。

「市民連合」は、安倍閣連法廃止・立憲主義の回復・個人の尊厳を擁護する政治の実現を課題として野党共闘を要求。32の1人区で、野党とともに候補者を絞り込む協議を進める方針です。

戦争法廃止を求める声は世論の多数です。自公連合に対抗して、立憲主義回復の多数の声を受け止める野党共闘を表現し、議会にその力を打ち立てる市民の宣言です。

全国各地でも、地域的な市民のネットワークが講演会を開催し、野党共闘の働きかけに動き始めています。

安倍政権は、戦争法発動の司令塔となる「同盟調整メカニズム」を開始させる一方、沖縄・辺野古での米軍新基地建設、原発再稼働、労働者派遣法の大改悪などでも憲法と民主主義、個人の尊厳を踏みにじる政治を強行しています。野党が憲法53条の規定に基づき要求した臨時国会の召集も無視しました。

独裁政治を許すのか。権力者に立ち向かう市民の歴史的たたかいが広がっています。

（中相賀一）

◆インタビューの面

「シリーズ待たなし！戦争法廃止」はこれまで12月2日付、7日付、11日付、18日付に掲載しています。

●高まる危機感

安倍政権による民主主義を蹂躪して憲法を破壊する政治に対する、尋常ではない危機感が伝わってきます。

安倍法制に反対するママの会の西郷南海子さんは会見で、「憲法は権力者に対し、私たちのかけがえのなきを守るためのもの。しかし、安倍政権はウンとごまかしで憲法を脅かした」と告発。「武力行使が当たり前になり、生まれた国や環境により、命の価値が決められてしまう世の中にしたくない。』だれの子ともごころさせない』という思いは世界共通」と、立憲主義回復のたたかいをさらに推し進

●学術企画でも

11日には、京都大で学術企画「立憲主義を考えるシンポジウム―日本国憲法70周年に向けて―」が開かれ、日本共産党の志位和夫委員長が「国民連合政府の展望」を語りました。政党の政権構想が、学術企画として取り

上げられるのは異例です。それほど立憲主義という政治の根本原理の破壊が深刻であることを示しています。

シンポで政治学立場から発言した岡野八代同志社大教授は、立憲主義の破壊は「法の支配」に代え「人の支配」をもたらさし、権力者の恣意によって個人の自由が振り回されると警告。「人間らしい生、尊厳ある生を否定する政治の始まりだ」と批判し、「人間らしい生を市民の手に取り戻す運動をこ呼びかけました。

安倍政権は、戦争法発動の司令塔となる「同盟調整メカニズム」を開始させる一方、沖縄・辺野古での米軍新基地建設、原発再稼働、労働者派遣法の大改悪などでも憲法と民主主義、個人の尊厳を踏みにじる政治を強行しています。野党が憲法53条の規定に基づき要求した臨時国会の召集も無視しました。

独裁政治を許すのか。権力者に立ち向かう市民の歴史的たたかいが広がっています。

（中相賀一）

◆インタビューの面

「シリーズ待たなし！戦争法廃止」はこれまで12月2日付、7日付、11日付、18日付に掲載しています。